

平成23年度卒業研究概要

大学生のアンケート調査結果からみた わが国の地理教育における現状の分析

初等教育教員養成課程 社会選修 青木 勇樹

本研究の目的は、わが国の地理教育の現状を分析することである。

研究方法として、主に愛知教育大学・中京大学・中部大学に在籍する大学生 555 名に対してアンケート調査を実施した。

調査の結果、高等学校における地理の履修率の低下などの地理教育の不振は成長過程において身の回りに地理に対して親しみをもつことができる要素が少ないこと、さらに高等学校と大学を取り巻く地理教育の「負のスパイラル」や教員養成に関わる「負の構造」に大きく影響を受けていることがわかった。他方、地図の読図や世界についての学習など、小・中学校における学習内容が社会生活において大きな有用性をもつことや「防災教育」、「日本・世界地誌」へのニーズが一層高まっていることがわかった。さらに、フィールドワークや映像・写真などを多く活用した授業、内容に関連した豆知識を得られる授業が好まれているということがわかった。

筆者は多面的・総合的なものの捉え方ができ、国際社会に主体的に生きる人材の育成において、地理教育が大いに必要であると考え。そのためには現在の日本の地理教育界に内在する諸課題を解決しなければならない。この諸課題の解決のためには小・中学校の教員はもちろん、高等学校や大学の教員による地理教育振興のための一層の努力が必要不可欠である。